

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	有り
陰影のバランス	明るすぎる

考察

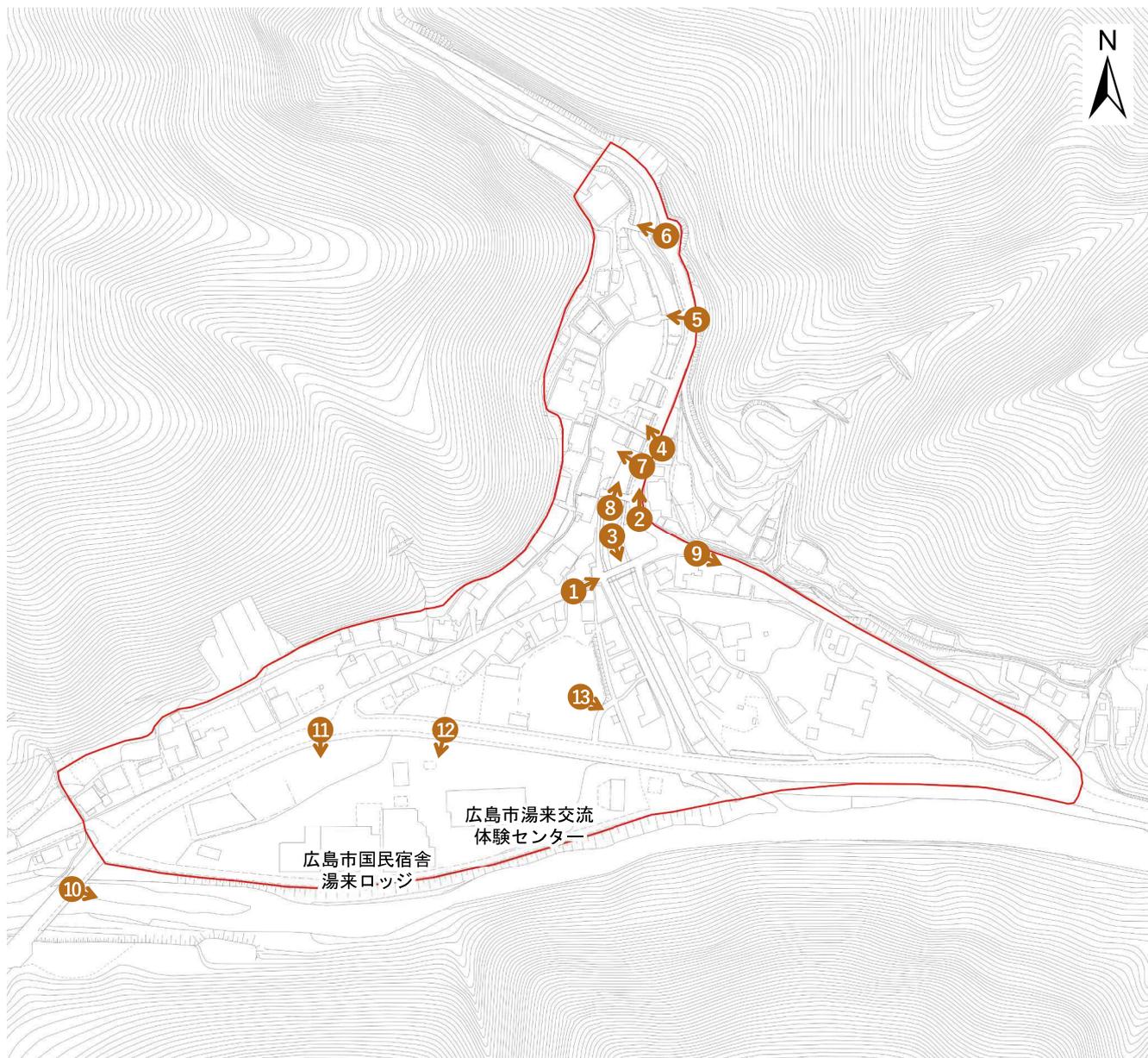
道路照明は下方配光かつ電球色に更新することが望ましい。

歩道空間のデザインを活かし、細かな間接照明や足元照明等によるヒューマンスケールのあかりの設えが計画されると良い。

エリアの特徴

広島市内で唯一の国民保養温泉地である湯来温泉・湯の山温泉。湯来温泉は、「広島のお座敷」と呼ばれ、多くの宿泊施設が軒を連ね、湯の山温泉とともに広島市民の保養地として栄えた。

温泉街もかつての盛り上がりはなく、宿泊施設は国民宿舎湯来ロッジが残るのみである。





1

湯来温泉のシンボルである木製の春日灯籠。長い年月使われているため破損も多く、修繕と追加が必要。色味も温かみのある電球色が望ましい。



2



3

川沿いに立ち並んでいた温泉宿の多くは廃業してしまっているが、新たな試みとして地域団体によって貸し切り露天風呂やカフェが運営されている。域内には移住者も多く、新たな担い手によるまちの活性化が期待できる。



4



5

アニメ「スラムダンク」に登場した宿も今は営業しておらず、周囲は暗がり。



6

最も奥にある宿。



春日灯籠。



7

貸し切り露天風呂。アクセス路となる手前の橋が暗い。



8

河川域は真っ暗。蛍の生態系への影響を考慮し、川面には光を当てることなく橋梁を照らす演出方法を検討する必要がある。



9

周辺の集落。建物からの漏れ光があると安心感が出る。



10

湯来ロッジの背面はロッジのあかりで照らされている。



11

湯来ロッジは暖かな電球色のあかり。



12

湯来ロッジの様子。

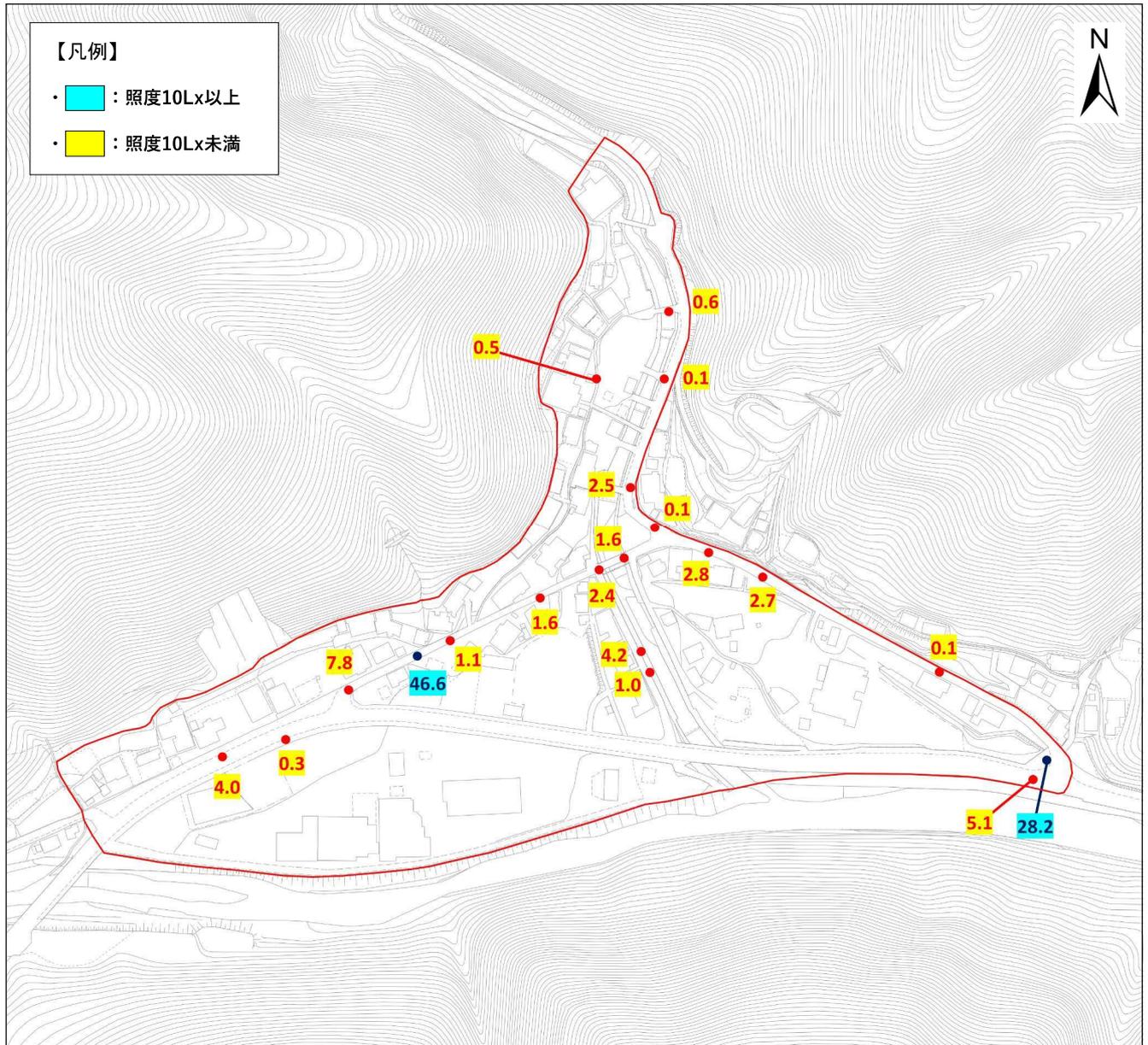


13

各所に枝垂れ桜が植樹されている。ライトアップによる魅力的な夜間景観資源になる。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

考察

従来からある温泉街の春日灯籠の改修とともに、湯来温泉の特徴でもある河川域を生かした温泉地ならではの夜間景観整備に取り組むべきである。

なお、蛍の生息地でもあるため、生態系に配慮した照明整備の検討が必要。

温泉街の魅力的な夜間景観を形成し、湯来ロッジへの来訪者からの口コミや蛍の季節イベントなどの機会を利用して、徐々に来街者を再獲得する計画を地域団体と共に検討することが望ましい。

エリアの特徴

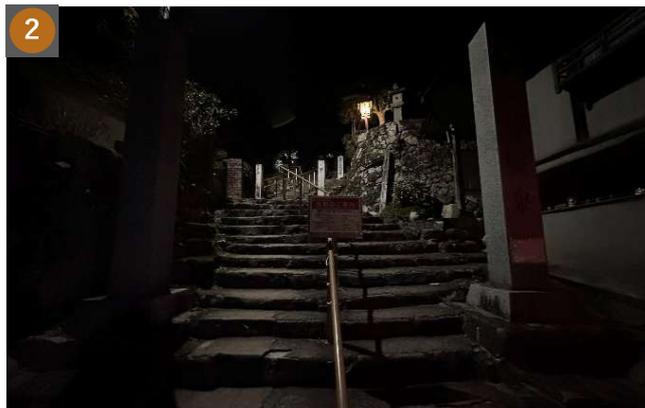
広島市内で唯一の国民保養温泉地である湯来温泉・湯の山温泉。湯の山温泉は、江戸時代に広島藩主の湯治場として創建された湯ノ山明神旧湯治場が現存し、国の重要有形民俗文化財に指定されており、湯来温泉とともに広島市民の保養地として栄えた。

温泉街もかつての盛り上がりはなく、宿泊施設は民間旅館が1軒残るのみである。





1 温泉街の様子。



2 湯の山明神の階段。



3 木々に囲まれた湯の山明神の階段には照明設備は無く、真っ暗な状態。ライトアップすれば魅力的になる。



4



5 湯の山明神の拝殿にはあかりが灯されている。



6 石灯籠が風情を醸し出している。



7 人気の日帰り温泉「クアハウス湯の山」。



8 クアハウス湯の山の駐車場付近。白色の照明。グレアが高い。



9
温泉街の井戸。



10
温泉街の様子。



11
温泉街らしい風情を醸し出す石灯籠。



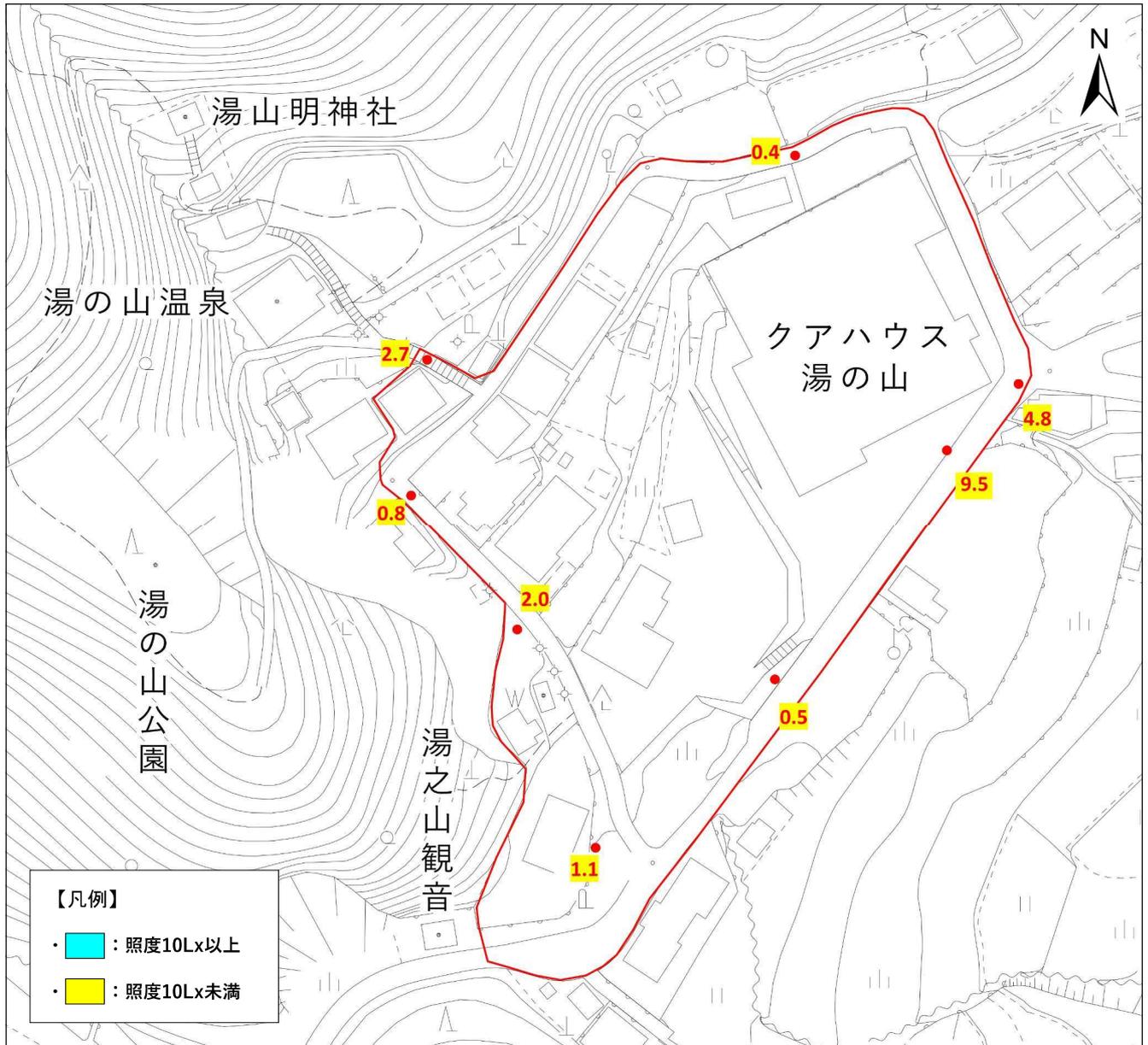
12
路地の様子。



13

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

考察

共通の灯籠のあかりが灯る温泉街の様子は魅力的である。

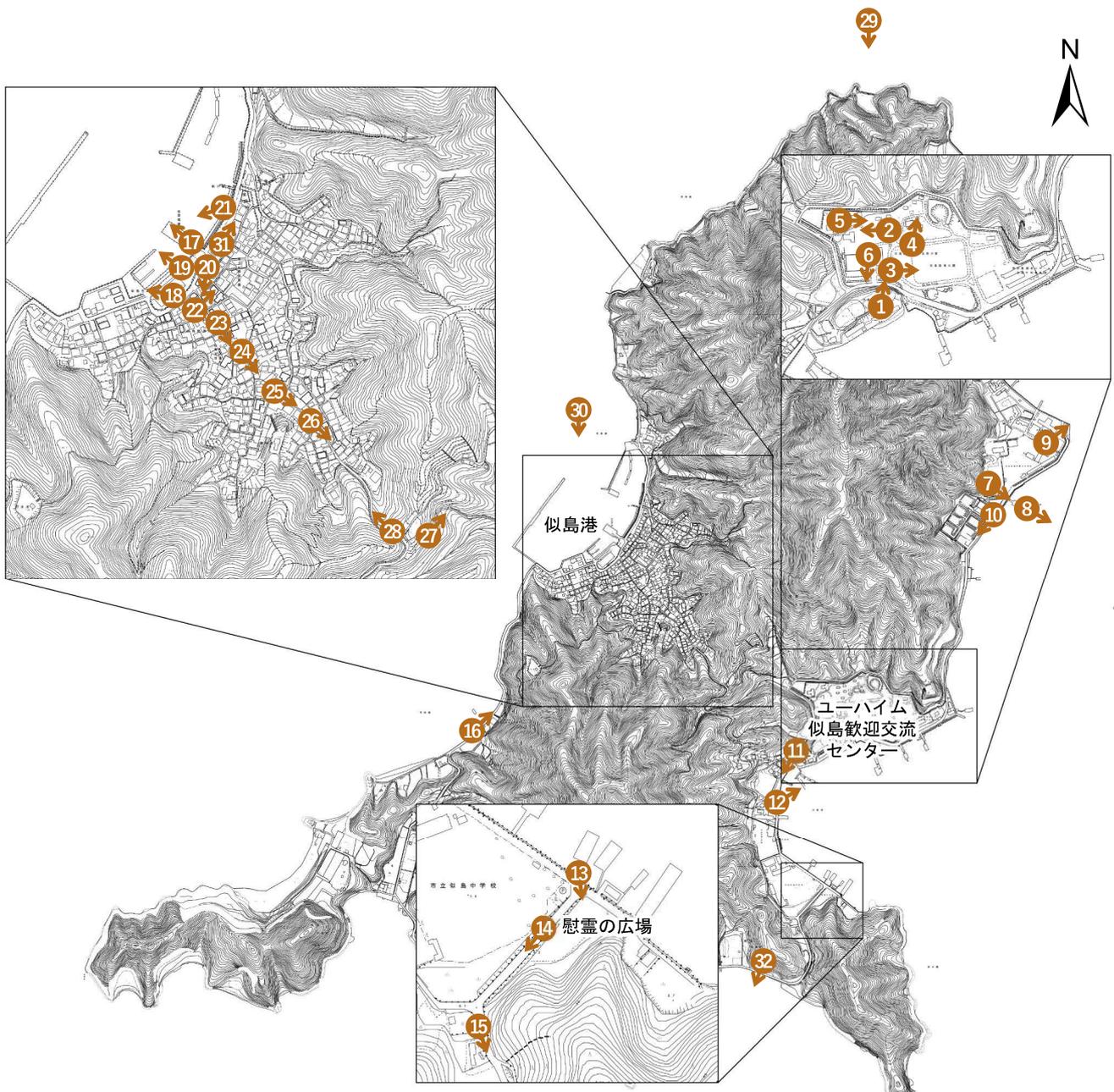
例えば、“国際平和文化都市広島を中心部からほど近いあかりの素敵神社のある温泉街”など、目指すべき将来像を地域とともに協議し、検討していくことが望ましい。

エリアの特徴

本市南区に属する似島は、瀬戸内海国立公園に位置し、広島港からフェリーで約20分と市街地に近接する中であって、美しい自然環境、貴重な歴史・文化的資源を有している。

平成25年(2013年)7月に離島振興法に基づく離島振興対策実施地域の指定を受け、積極的に似島の振興に取り組んでいるが、人口減少・少子高齢化の加速的な進展により、島の活性化は喫緊の課題となっており、持続可能な地域社会を実現するための有効な対策が求められている。

令和6年度(2024年度)には、ユーハイム似島歓迎交流センターを整備し、広島市内から近い自然豊かなスポーツレクリエーションの拠点として期待されている。





1

ユーハイム似島歓迎交流センターの施設内のオープンスペースはどこも暗い。個人客が施設内を探訪したくなる程度の夜間景観の形成は必要。



2



3

施設のエントランスや宿泊棟エリアの入り口は来訪者に安心感を与える重要な場所であるため、鉛直面の明るさ確保と温かみのある電球色への変更が望ましい。



4



5

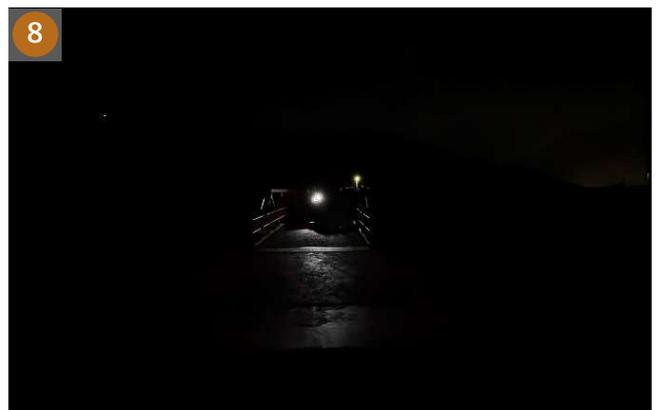
樹木のライトアップや工作物への照明、遺構の演出など後付の照明整備で十分改善できるため、対応することが望ましい。



6



7



8

島内のほぼすべてのエリアが暗がりであるが、来訪者が夕刻を過ごすであろう場所、住民が日常的に利用するであろう場所を特定し、温かみのある公共照明の設置が望ましい。その際には島で楽しめる星空を阻害しない下方配光や低位置の照明設備が望ましい。



9

後藤新平像が建立されているが闇に沈んでいる。コールテン鋼の棧橋待合所も夜間には消灯している。



10



11



12

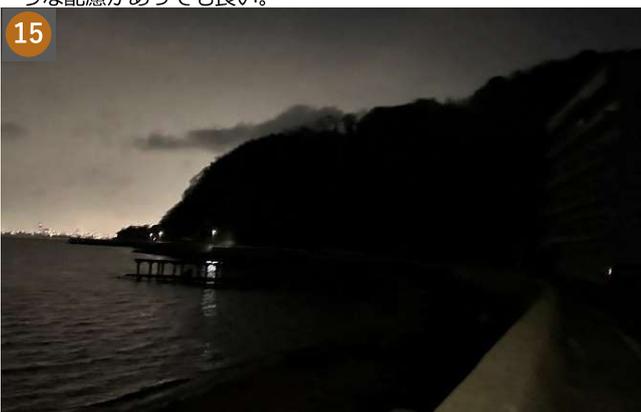


13

慰霊碑と慰霊の広場も夜間には消灯している。地域で手入れをしている花壇などがあるため、夕刻に心地よい居場所となるような配慮があっても良い。



14



15



16

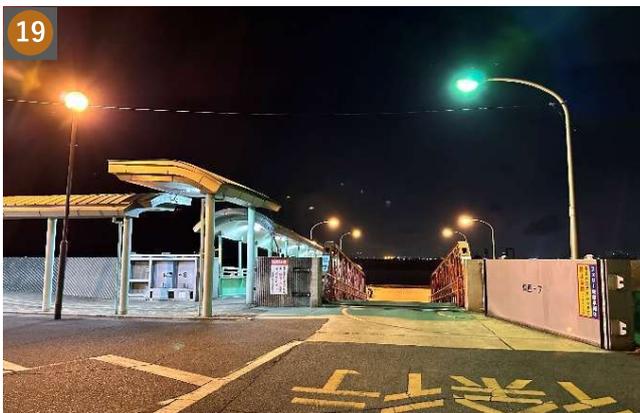
島内の道路の様子。自動車での移動に関しては照明設備が無くても問題はあまりない。



17 似島港棧橋は旅情感もある。ナトリウム灯の雰囲気も良い。



18 白色の蛍光灯型ベースライト。港のナトリウム色（2200K程度）に合わせて、電球色にするとより良い景観となる。



19 色温度が混在している。2700K程度以下への統一が望ましい。



20 強い投光照明があるため、暗くなく視認できる。可能であれば、それぞれ個別にライトアップして雰囲気をつくりたい。



21 棧橋傍の水際にはデッキ空間が整備されており、心地よい夕刻の島時間を楽しめるような工夫がされている。



22 棧橋周辺には、リノベーションされたカフェもある。



23 生活道路の中でも徒歩で移動するような細街路に灯りが無く、不安感が高い。危険な暗がりも散見する。



24 懐中電灯やスマートフォンを利用して足元を照らしながら歩かなければならないほど暗い。改善が必要。



25

街灯はグレアが高い。



26

西の似島港から東に抜けるルートが始まり。



27

歩ける距離ではあるが漆黒の山。照明を整備するとなると相当な本数の街路灯が必要。



28



29

連絡船から見た似島北側

この眺望で感じる、ささやかな夜景の可能性を探りたい。



30

連絡船から見た似島港

似島港へ夜間に到着する時に感じる旅情を掻き立てる夜間景観の形成が必要。



31

似島港栈橋、似島学園港栈橋の両方に整備されている親水雁木空間。ライトアップにより魅力的な港夜景になる。

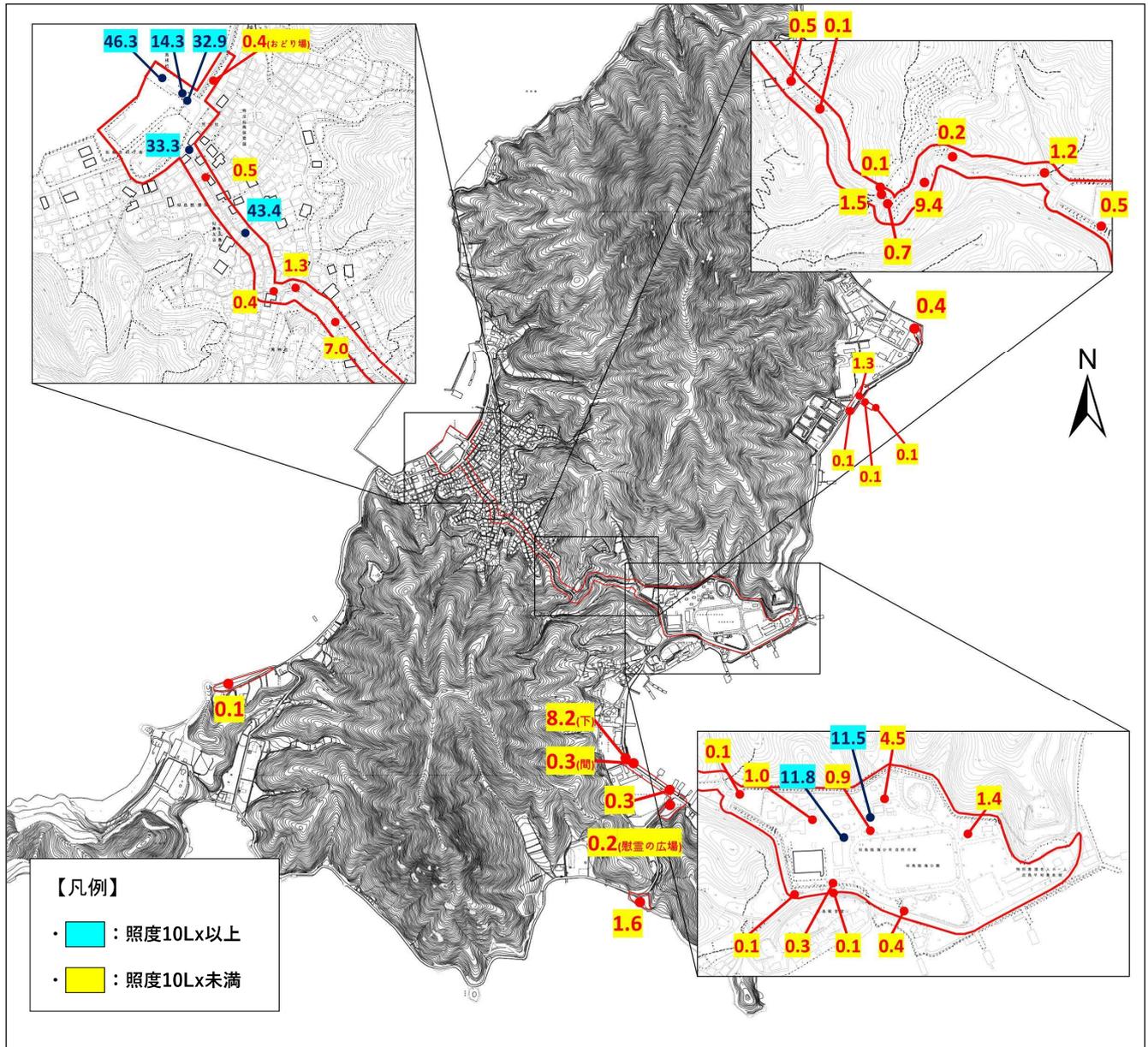


32

牡蠣養殖の抑制棚の様子。この風景が夕刻にもほのかに見えたりすると似島ならではの夜景となる。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

考察

「おもてなしのあかり」と「住民の安全・安心を確保するあかり」両方の推進が求められ、水面に浮かぶ島の個性を活かしたあかりづくりを検討する必要がある。

特に、集落のあかりは早急に対策を講じる方が良く、暖かな日常のあかりが灯る木造住宅が残る集落は、来訪者や移住者にとっても魅力的に映る。

エリアの特徴

中区袋町にある被爆建物。

日本銀行広島支店として建設。被爆時、1、2階は鎖戸を閉じていたため内部の大破は免れたが、3階は開けていたため大破全焼。

市内の金融機関はほとんど壊滅したため、この建物の内部を仕切り、各金融機関が窓口を設け、8月8日から業務を開始した。

現在は文化財として公開するとともに「芸術・文化活動の発表の場」として活用されている。



考察

ライトアップの設備はあるが、点灯されていない。

最近のLEDは極小でパワーもあり、以前は難しかった演出も可能であるため、広島を代表する被爆建築の1つでもあることから、ライトアップを復活させ、中心市街地の回遊性向上に貢献できると良い。

エリアの特徴

南区宇品御幸二丁目にある被爆建物。

兵士の食糧や軍馬の飼料を調達、製造、配送する施設であり、爆風によって、ガラス窓は割れ、屋根の鉄骨は屈曲している。被爆後は臨時収容所となり、大勢の被災者を収容した。現在は、郷土資料館として使用されている。



考察

煉瓦造の倉庫建築の良さが伝わってくる建物で、ライトアップに向いている。既存の照明は敷地内を明るく照らすためだけの照明であるため、建物のライトアップを行うことにより美しいランドマークとして目的地になり得る。広島の建築に関する情報発信に活かしたい。

エリアの特徴

中区江波南一丁目にある被爆建物。

建物は原爆の爆風を受け、气象台員の多くも負傷したが、一日も休むことなく気象観測を続けた。

当時の様子は、小説「空白の天気（柳田邦男著）」にも描かれており、館内には爆風により曲がった窓枠や壁に刺さったガラス片など、被爆の傷跡の一部を保存してある。

昭和初期の鉄筋コンクリート建築を代表するものとして平成12年(2000年)には広島市重要有形文化財に指定されている。



考察

魅力的な建築であるため、間接照明の付与だけで訪ねたくなるランドマークとして発信できる。

ライトアップを実施することで、広島市の被爆建築の情報発信ができると良い。

エリアの特徴

中区袋町にある被爆建物。

鉄筋コンクリート造3階建の校舎は、原爆によって外形だけ残して焼失した。焼け残った校舎は、避難場所や救護所として使用され、児童・教職員や地域の人々の安否を尋ねる場となった。

平成14年(2002年)、西校舎の一部を保存し平和資料館が開設。

資料館には、安否を確認するために書かれた「伝言」が残ってる内壁の一部などが展示されている。



考察

中心部の繁華街にあり、身近に被爆建築・近代建築の姿を鑑賞できる施設である。夜間のランドマークになり得る景観資源。

モダニズムの窓形状を視覚化する室内光による漏れ光と、水平を強調するような外壁のライトアップによる演出が望ましい。

エリアの特徴

広島市中区鞆町に所在し、昭和20年(1945年)8月6日の原爆犠牲者を弔い、世界平和の実現を祈念する場として企図された教会堂である。設計は村野藤吾で、昭和29年(1954年)の原爆記念日に献堂された。

全長57メートルで、東端に花卉形平面のドラムを建ち上げ、北側西寄りに鐘塔を建てる。平面は東方を内陣とした三廊式バシリカ会堂である。

世界平和記念聖堂は、被爆都市広島における世界平和の実現を祈念する戦後復興建築の先駆的建築で、堂や塔などの全体構成や量的比例が優れている。

日本的性格と記念建築の荘厳さを備えつつ、新しい時代に適応した宗教建築を実現したことで高く評価され、戦後村野藤吾の原点となる作品として重要である。(文化庁HP)



考察

高い評価を得ている美しい教会であるため、ライトアップを施して、広島を代表する夜間のランドマークの1つとして多くの方に知っていただく価値がある景観資源。

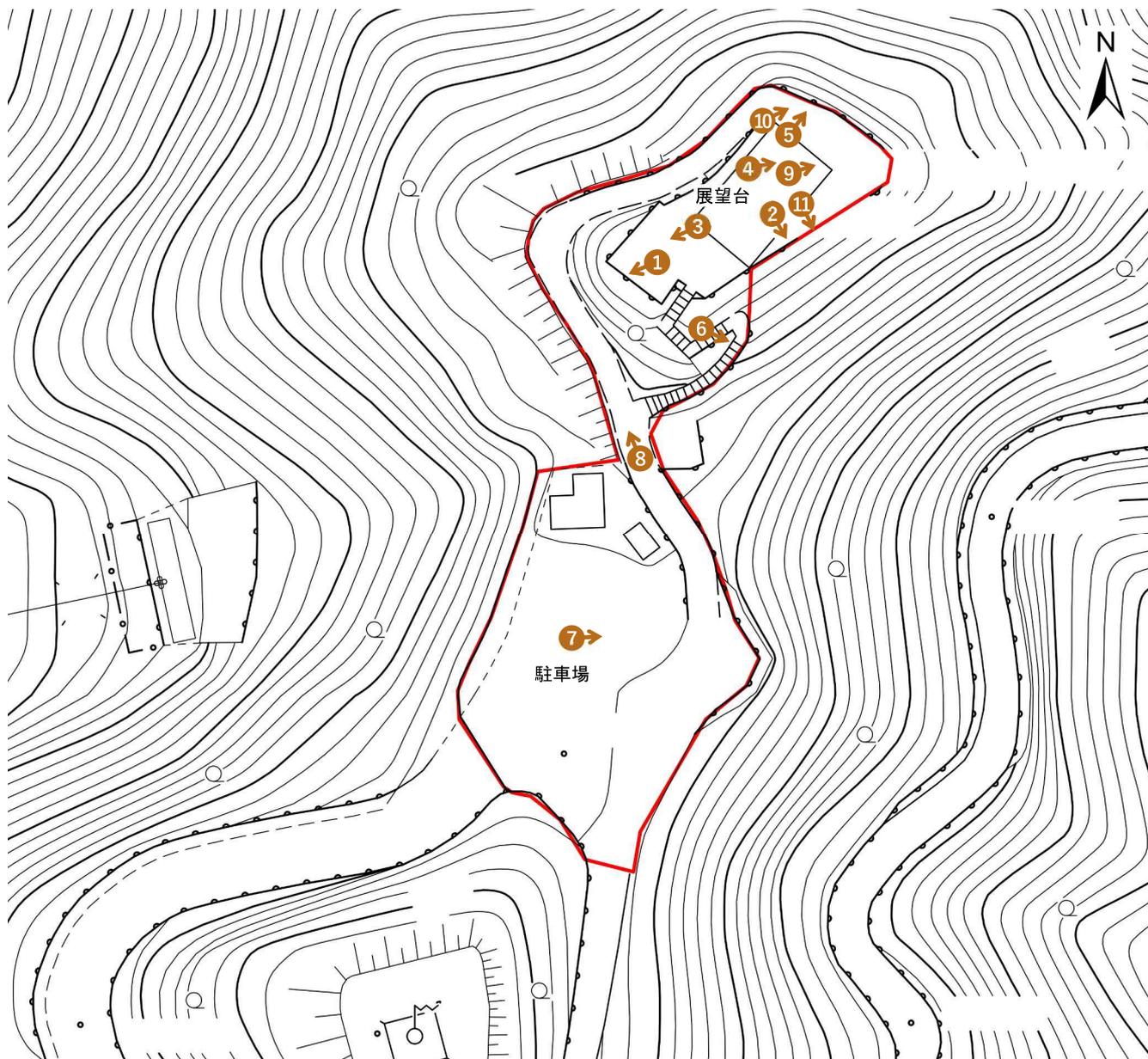
建物に装着せず、地面から狙うことのできる印象的なライトアップや透かし装飾の協調など、建物価値が高まる演出が考えられる。

エリアの特徴

市内中心部からほど近く、オレンジ色に輝きながら交差する広島高速など3方向の眺望夜景を眺めることができる展望台。

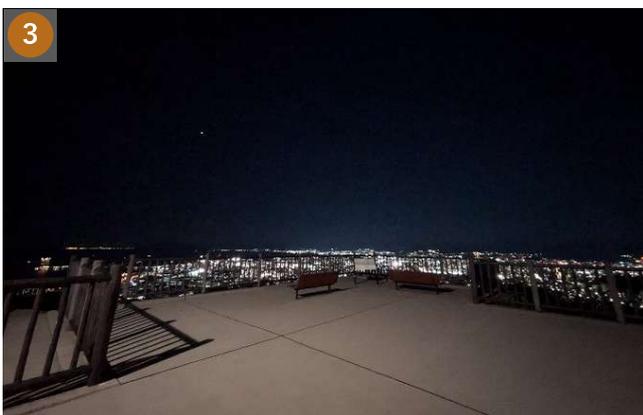
令和2年(2020年)には、広島市街地を望むことができる山頂展望ゾーンが新たに増設され、リニューアルしている。

桜の名所でもあり、春には多くの花見客が訪れている。

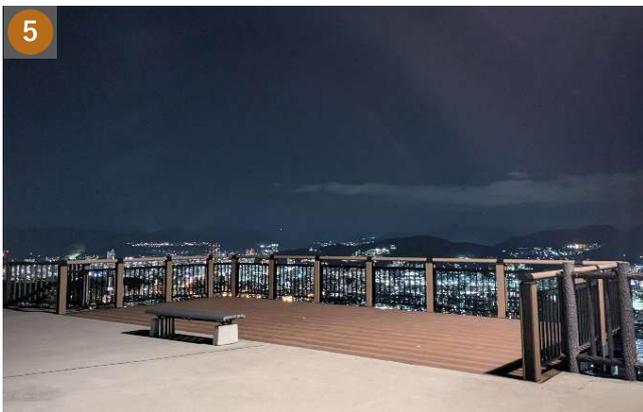




展望台から眺められる夜景。特に海田大橋と高速道路のジャンクションは絶景。



現在はあかりが乏しく、白色の照明のみでロマンティックな雰囲気は全くない。グレアも高い。デートや賓客の招待などに利用できる安心感と快適性を与える照明設置が望ましい。



展望エリアが増設されているにもかかわらず、そこに至るアクセスルートの階段やスロープの明るさは不足している。樹木のライトアップなど鉛直面の明るさ感を追加し、安心感のある展望施設へと更新することが望ましい。

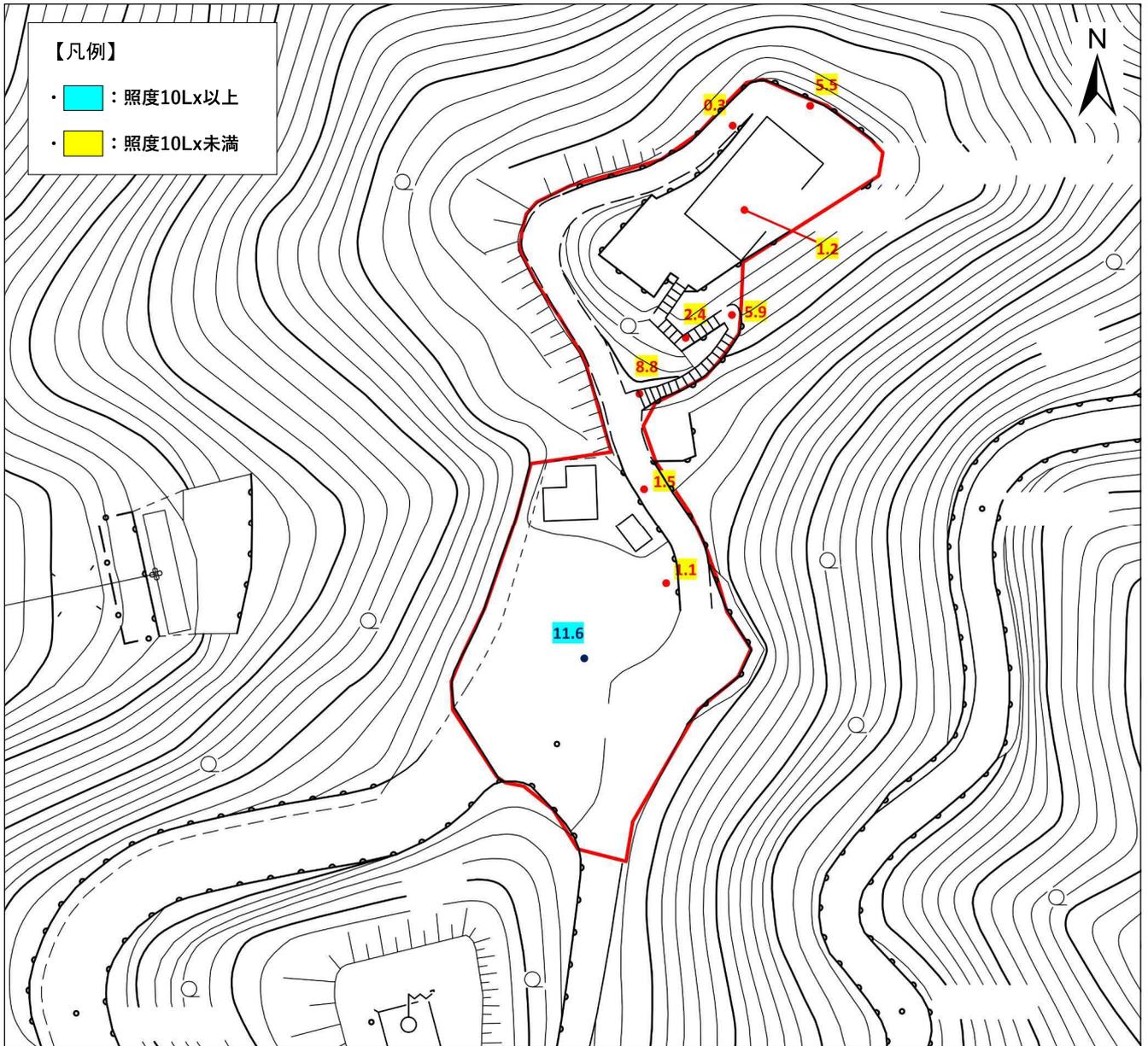


駐車場にも新たな展望エリアが設けられるなど、本視点場から眺める絶景へのニーズも高いように思えるが、駐車場照明は無い。桜など周辺樹木のライトアップ等を行えば明るさ感が増す。



照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

考察

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

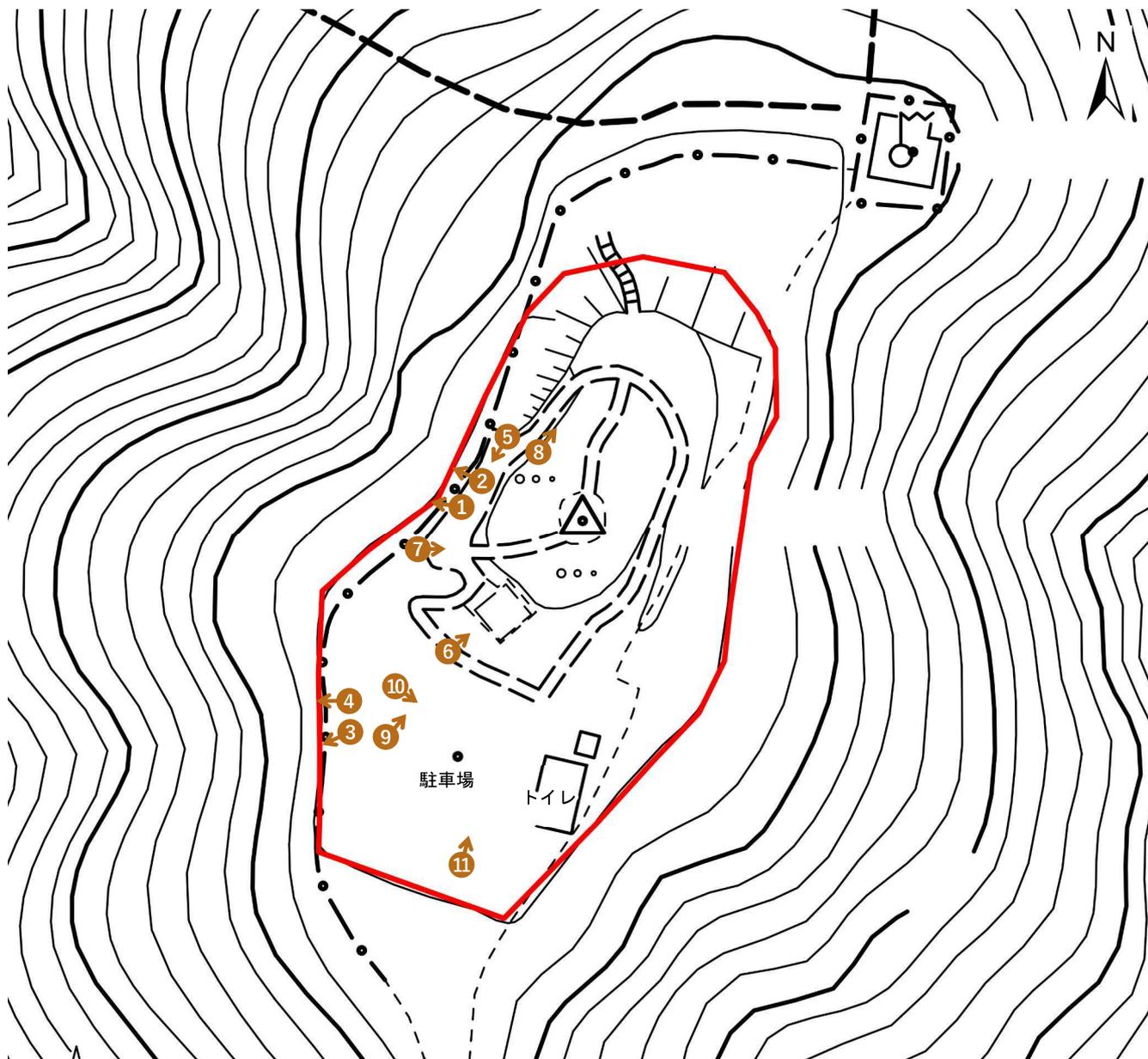
展望台エリアとしては、視野に入らない下方の照明（手すり間接照明など）を追加し、心地よい明るさがあるように照明を追加する。

展望台に至るアクセスルートについては、下方配光の駐車場照明や樹木ライトアップ、園路は低ポール灯によるアプローチの明るさ確保など、本エリアのアップデートは観光誘客の点で大きな効果をもたらす可能性がある。

エリアの特徴

広島デルタの街の景色と、島しょ部の島々が紡ぎだす瀬戸内の景色を楽しめる展望台。

山頂近くまで舗装道路を車で行くことができるほか、中国自然歩道や遊歩道が整備されており、色々なコースから登山を楽しむこともできる。



12 展望台



広島市街地方面を眺める夜景



絵下山展望台から眺められる瀬戸内の島々。夕焼け空を背景にしたシルエットが美しい。



足元照明やポール照明等が配置されており、手すり際まで行くことは部分的に可能。東屋は真っ暗で近寄りづらい。

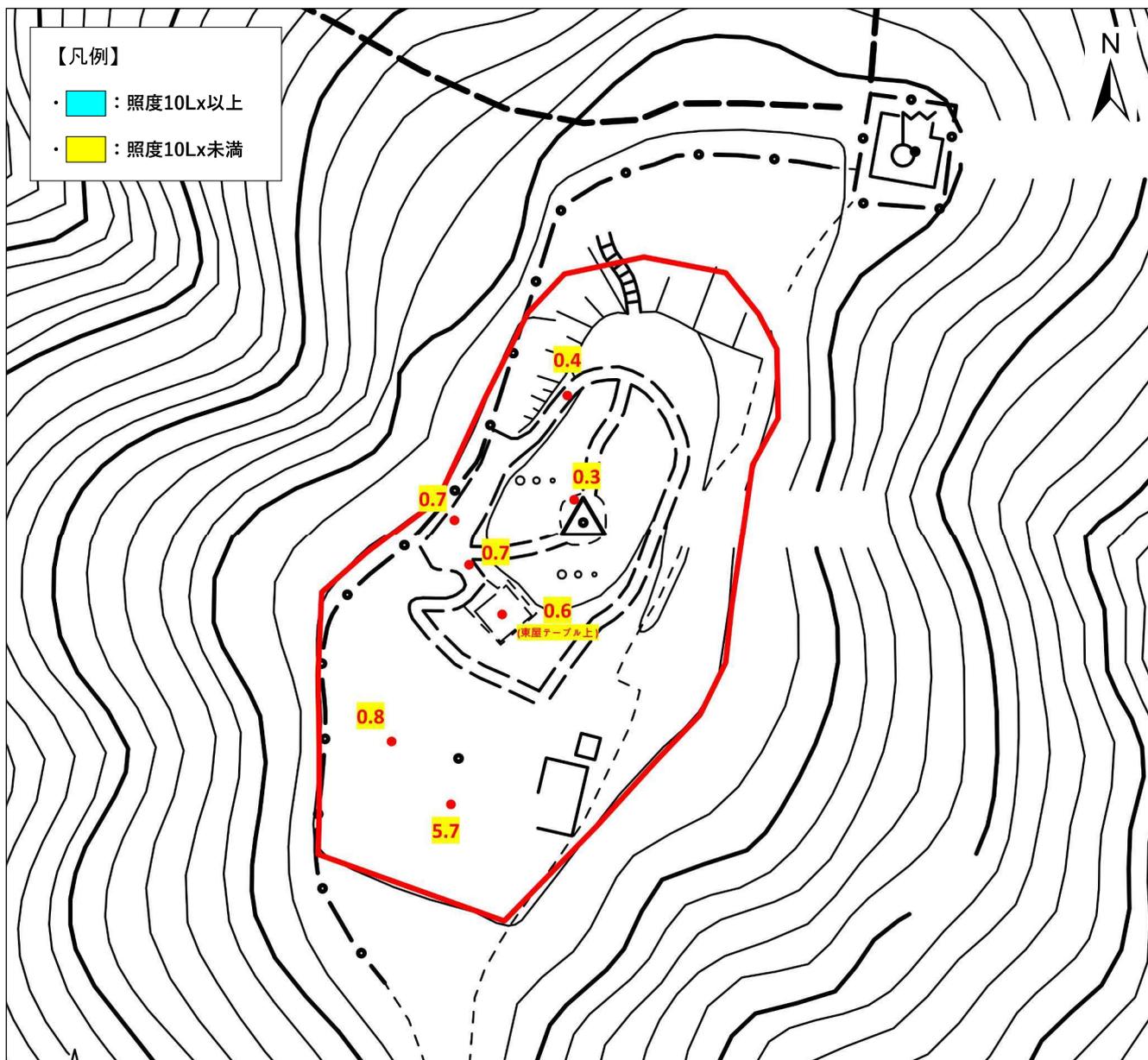




トイレのあかりが駐車場の安心感を高めているが、色温度が高い白色であるため、他の照明とは調和していない。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

考察

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

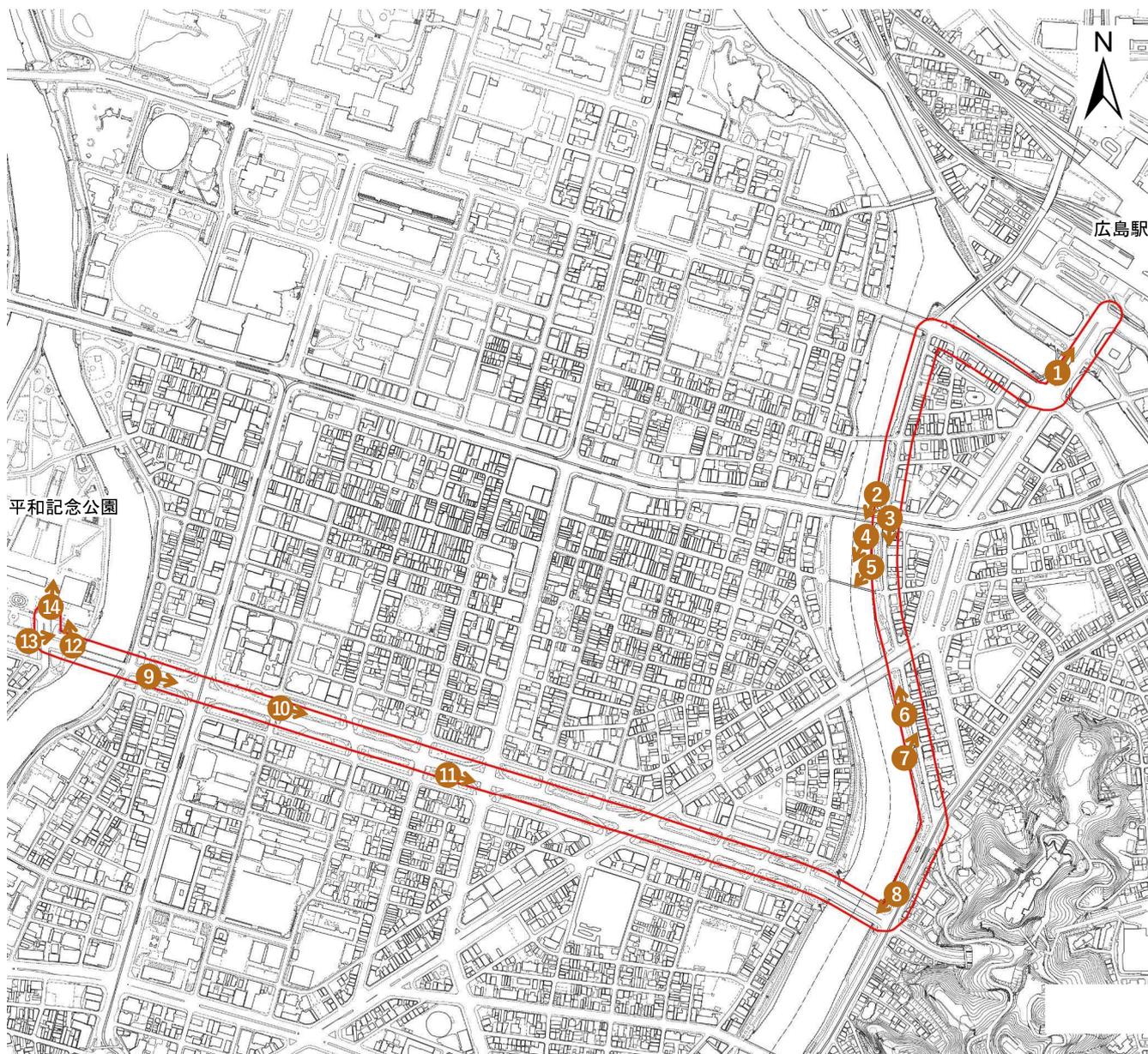
駐車場から展望台に至るルートについては、最低限の照明設備はあり、夜景を楽しむことは可能と言えるが、眺望夜景を見るには距離があり、また、日中にこの展望台から見る事ができる多島美は夜間見ることができない。

エリアの特徴

「平和の道」は、平和記念施設に観光客を誘引し、ヒロシマの心を世界に広める一助とするため、昭和53年(1978年)に広島駅と平和記念公園をつなぐ散策コースとして設定した2つのルートの一つ。

広島駅を出発点とし、京橋川沿いを南下して比治山下から平和大通りを西に向かって平和記念公園へと向かうもの。

ルート上の路面には「平和の道」と書かれた金属製のプレートが埋め込まれている。





1

駅前大橋の橋上はオリジナルのスポットライト柱からの照射で車道部は十分に明るいですが、グレアを感じる。



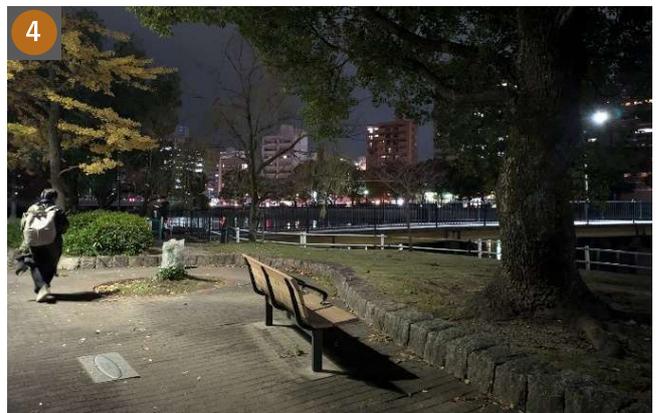
2

所々にある古い園路照明は、その付近にしか十分な明るさが届いていないのにもかかわらず、グレアを感じる。



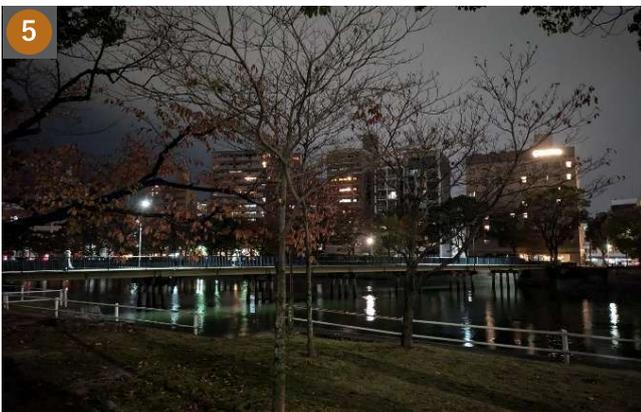
3

遊歩道内はどれも樹木が暗がりをつくってしまい、不安を感じる。グレアも高い。



4

ベンチがあるが、見るべき川面と対岸の眺望は暗がりとなり、夜間に佇む際の視対象がない。



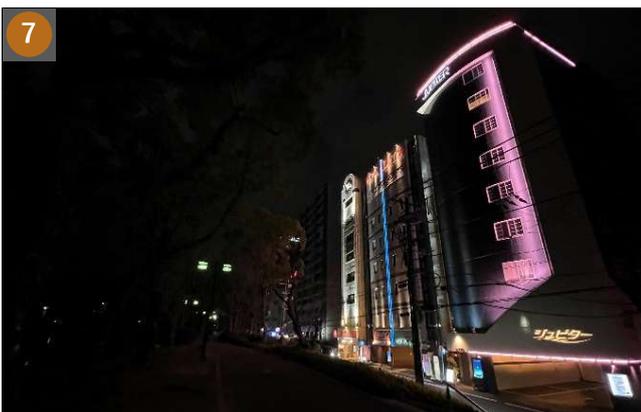
5

花木や人道橋（柳橋）が輝くことによる美しい夜間景観が期待されるが、現在は生かされていない。



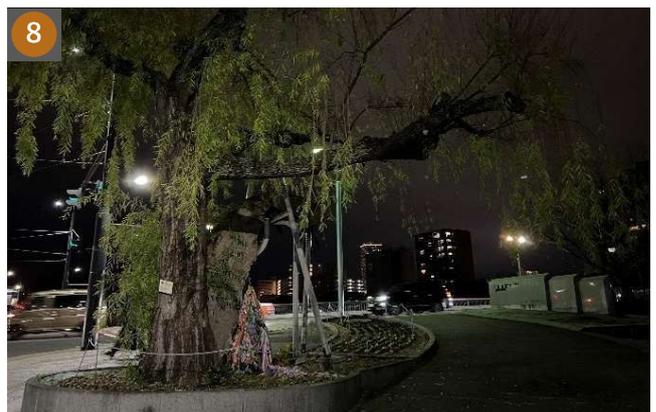
6

園路照明はグレアを感じる。



7

業務ビルカラー演出が目立っている。



8

被爆樹木であるシダレヤナギ。周辺の光で夜間にも様子は確認できる。



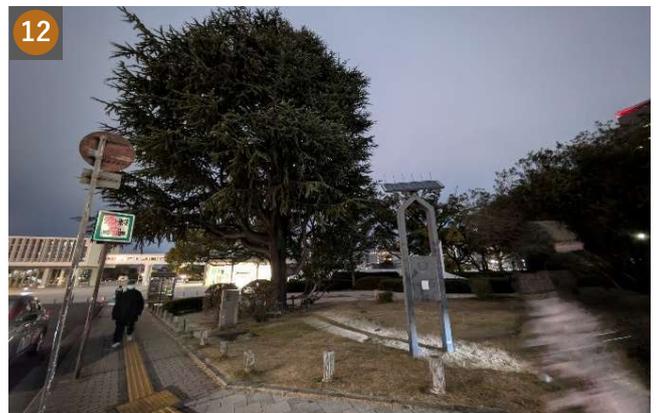
9 車道照明の漏れ光により歩道には一定の明るさがあるため、夜間は遊歩道を歩かず歩道のみを利用するようになる。



10 車道照明は白色。遊歩道は電球色など低めの色温度が使用されており、景観的な配慮がある。



11 和風のしつらえや庭園デザインも取り入れられているが、夜間には生かされていない。



12 モニュメントはライトアップされていない。



13 重要なモニュメント（ポスト）も夜間景観に生かされていないため、ライトアップするなどが望ましい。



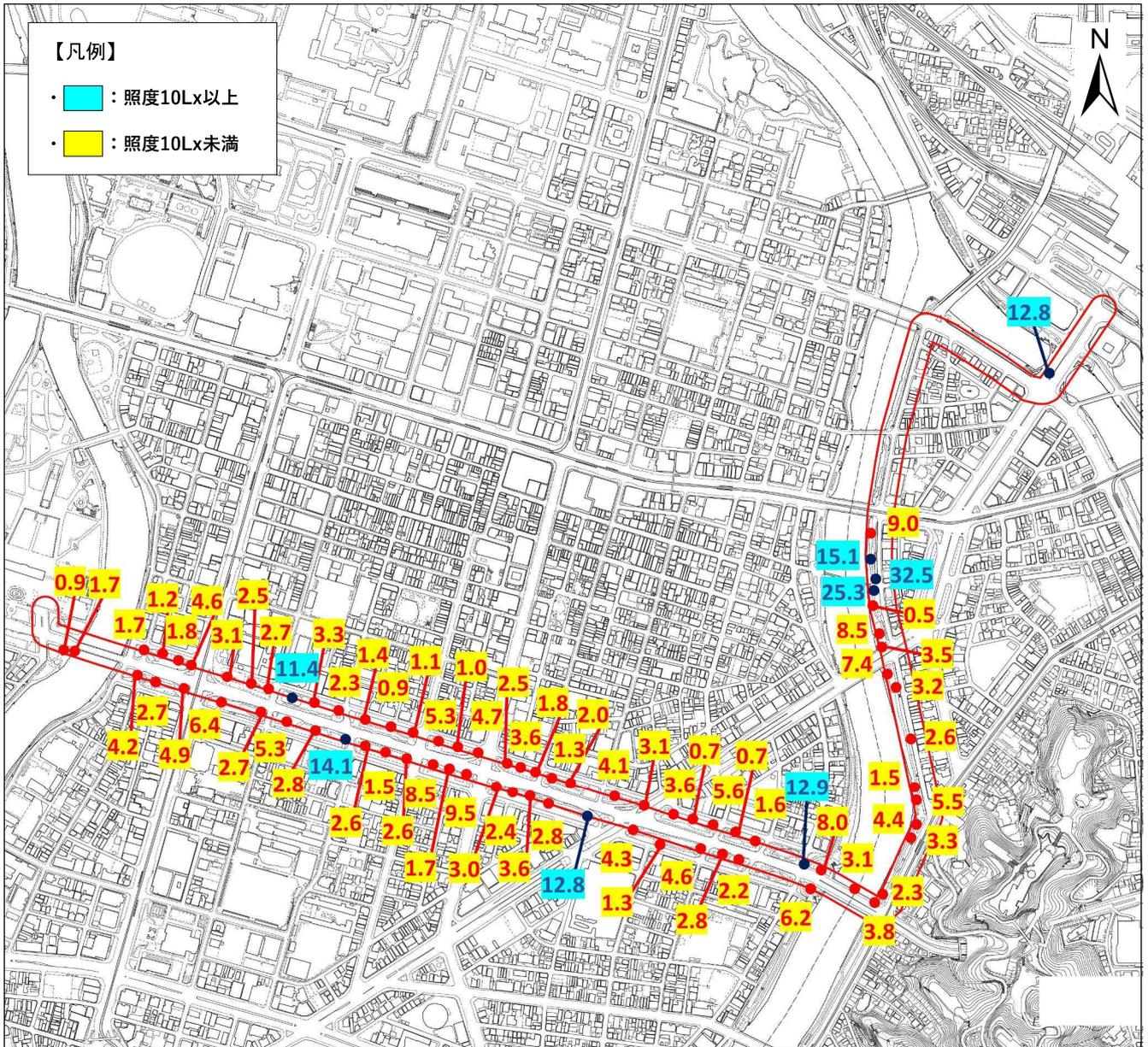
14 平和記念資料館も消灯後は暗がりのゲートとなっている。部分的な点灯などを検討し、建築物を活かした夜間景観の創出が望ましい



プレートを辿って行くことで平和の道を歩くことができる。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

考察

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

モデル地区2（平和大通り沿道地区）、モデル地区5（京橋川系リバーフロント地区）及びモデル地区7（広島駅周辺地区）における考察を参照。

平和大通り以外は“平和”を感じさせる要素が希薄している。

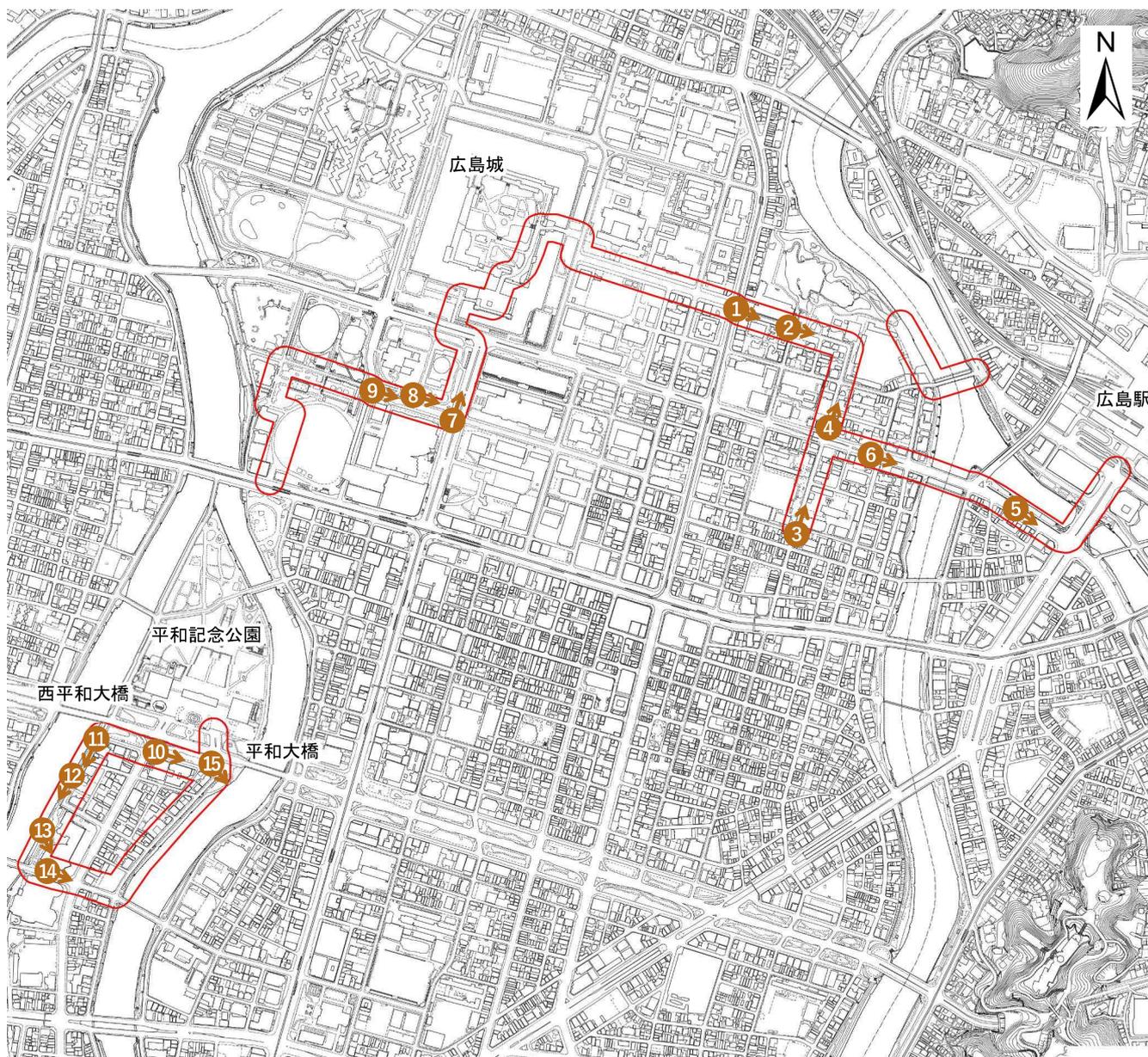
路面の金属製プレートは、夜間は特に意識しなければ気づきにくい。

エリアの特徴

「文化の道」は、平和記念施設に観光客を誘引し、ヒロシマの心を世界に広める一助とするため、昭和53年(1978年)に広島駅と平和記念公園をつなぐ散策コースとして設定した2つのルートの一つ。

広島駅から城南通りを西に向かい、縮景園、県立美術館、広島城を經由しながら平和記念公園へと向かうもの。

ルート上の路面には「文化の道」と書かれた金属製のプレートが埋め込まれている。





広島県立美術館前



縮景園前

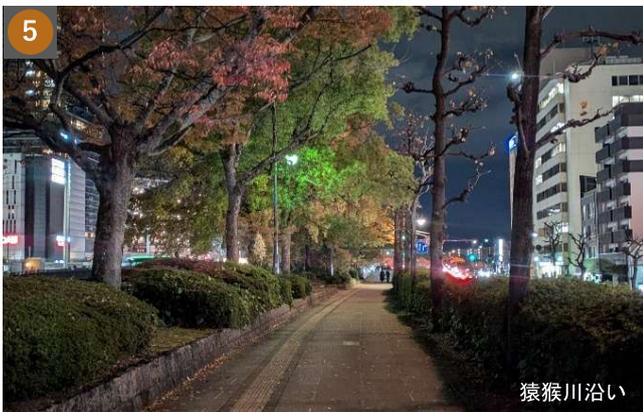


カトリック幟町教会・幟町小学校周辺



幟町小学校周辺

「文化の道」として、縮景園前やカトリック幟町教会付近には、特別な歩道照明が設置されエリア感を創出しているが、「文化の道」の全エリアにかかるアイコンは希薄している。グレアは高い。



猿猴川沿い



城南通り



広島美術館前



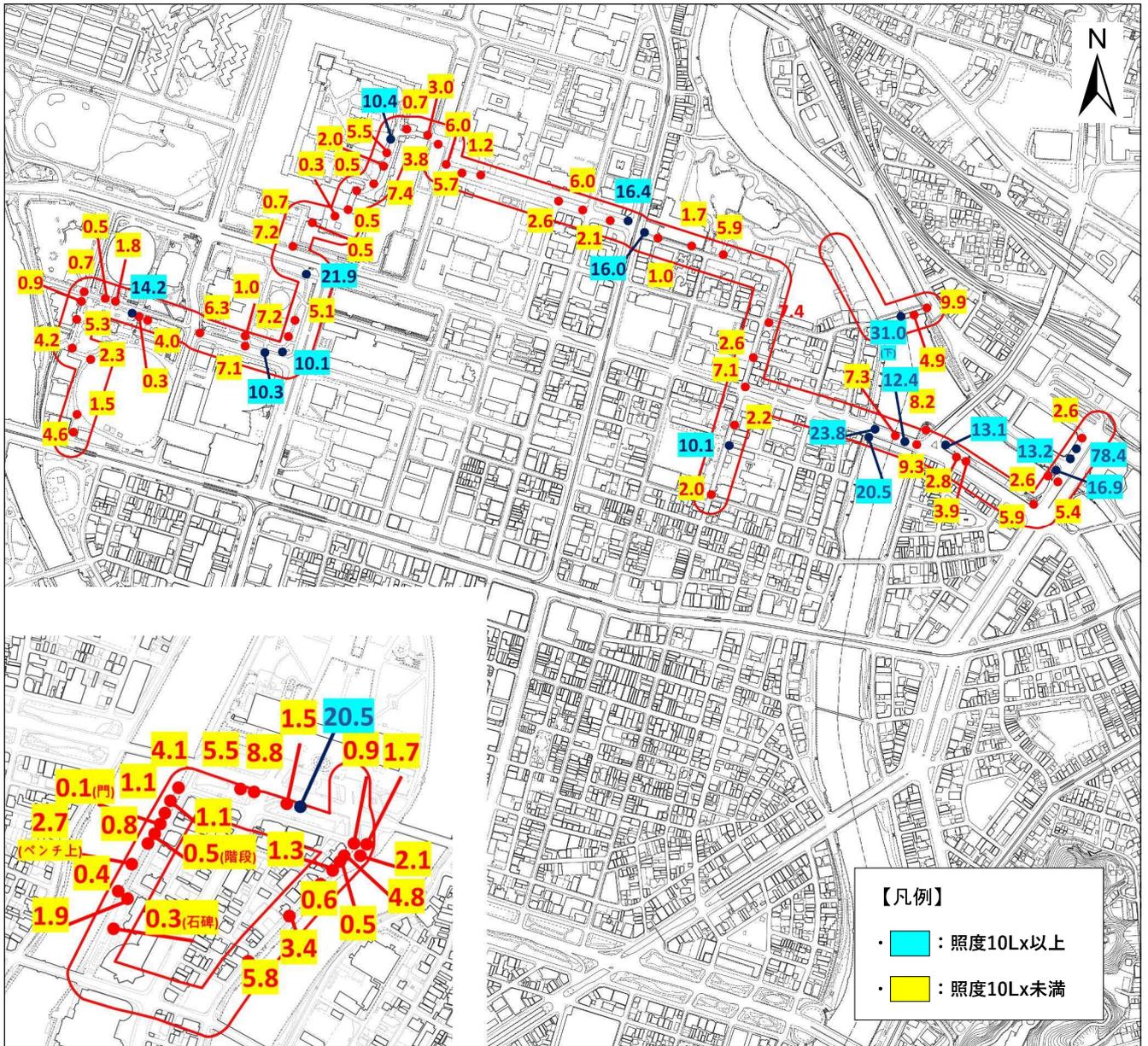
広島市中央図書館周辺

夜間の散策ルートを設定するのであれば、それらの施設建物演出や周辺緑地・遊歩道の照明演出を整えていく必要がある。幟町側から広島城跡に突き当たる箇所には、池田隼人像・大鳥居・東御門など広島城跡東側の夜間景観が広がる。



照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

考察

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

全体として、まずは電球色への変更と、定められた基準照度を確保するだけの公共照明整備からの脱却を進め、夜間景観の形成という視点からの見直しが必要である。

調査業務受注者：株式会社L E M空間工房